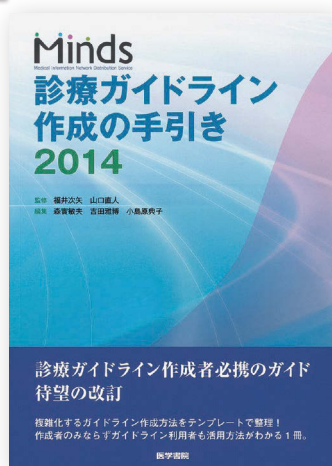




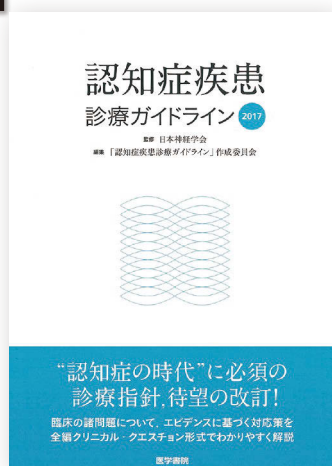
今月の特集関連本



Minds 診療ガイドライン作成の手引き 2014

福井次矢、山口直人＝監修
森實敏夫、吉田雅博、小島原典子＝編
本体 3,500 円＋税／B5 判・144 頁／医学書院／2014

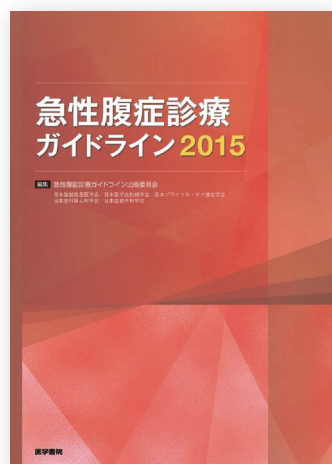
日本医療機能評価機構が運営する、診療ガイドラインと関連情報を提供する EBM 普及推進事業 Minds。エビデンスの重要性がますます強調されるなか、本書では、診断・治療といった医療の介入がもたらす「益と害」のバランスも詳細に解説されている。複雑化する作成手順も、付属のテンプレートに記入することで漏れなくポイントを押さえられる実用的構成。ガイドライン作成者には必携書であるのみならず、利用者にも活用のポイントが整理された 1 冊。



認知症疾患 診療ガイドライン 2017

日本神経学会＝監修
「認知症疾患診療ガイドライン」作成委員会＝編
本体 5,400 円＋税／B5 判・384 頁／医学書院／2017

認知症に関する情報を網羅した「診療ガイドライン」待望の改訂版。定義や疫学、診断、治療、社会資源などの総論的な内容から、Alzheimer 型認知症や Lewy 小体型認知症など原因疾患ごとの具体的な特徴や診断・治療法といった各論的な内容まで幅広く網羅。全編クリニカル・クエスチョン形式で、読者の疑問にダイレクトかつわかりやすく答える内容となっている。p.1120 に書評あり。



急性腹症診療ガイドライン 2015

急性腹症診療ガイドライン出版委員会＝編
本体 3,800 円＋税／A4 判・188 頁／医学書院／2015

臨床で遭遇する機会の多い急性腹症患者に対する診療ガイドライン。症状と初期対応を重視し、限られた時間のなかで的確に対応するための情報を盛り込んだ。疫学、問診、身体所見、検査の記載も充実。関連学会（腹部救急医学会、医学放射線学会、プライマリ・ケア連合学会、産科婦人科学会、血管外科学会）の豊富な経験と英知を結集した、医師必携の 1 冊。



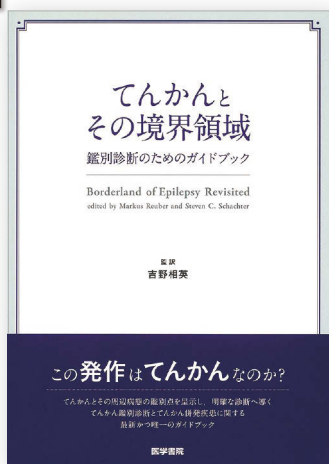
今月の特集関連本



てんかん診療ガイドライン 2018

日本神経学会＝監修
「てんかん診療ガイドライン」作成委員会＝編
本体 4,600 円＋税／B5 判・240 頁／医学書院／2018

患者数が多い神経疾患で、さまざまな診療科の医師が携わっている「てんかん」。日本神経学会監修による本ガイドラインは、成人および小児のてんかんの診断、検査、薬物治療、外科治療、予後に至るまで、エビデンスに基づいた臨床上の指針を網羅。クリニカル・クエスチョン（CO）形式で、専門医のみならず一般医にも理解しやすくまとめた。第2部として、3つのCQについて行った厳密なシステマティックレビューのダイジェストが加わった。



てんかんとその境界領域

鑑別診断のためのガイドブック
Markus Reuber, Steven Schachter＝編
吉野相英＝監訳
本体 10,000 円＋税／B5 判・344 頁／医学書院／2017

てんかん診療に携わる医師の悩みは、てんかん発作と非てんかん性発作の鑑別。本書は、2013年にOxford University Pressから出版された『Borderland of Epilepsy Revisited』の全訳。てんかんとその周辺病態の鑑別点を提示し、明確な鑑別診断へと導く1冊。具体的な症例が多数紹介され、てんかんと境界領域への理解を助ける。てんかん鑑別診断とてんかん併発疾患に関する最新かつ唯一のガイドブック。

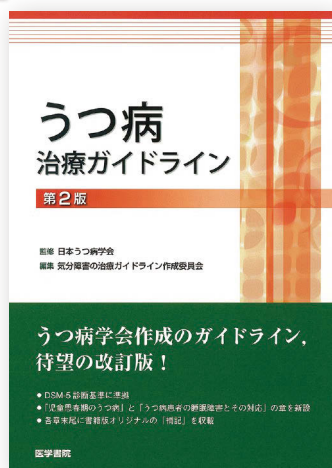


パーキンソン病診療ガイドライン 2018

日本神経学会＝監修
「パーキンソン病診療ガイドライン」作成委員会＝編
本体 5,200 円＋税／B5 判・308 頁／医学書院／2018

治療に特化していた前版『パーキンソン病治療ガイドライン 2011』から7年、名称を“診療”ガイドラインに変更した改訂版が、満を持して登場！ 最新治療はもちろん、新たに国際的な診断基準や画像検査、病因なども網羅した。厳選したクリニカル・クエスチョン（CQ）と50のQ&Aで、臨床の課題を徹底解説する。

今月の特集関連本



うつ病治療ガイドライン

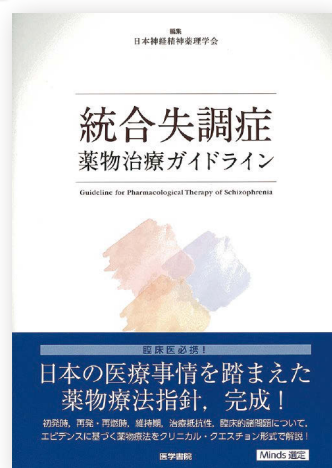
第2版

日本うつ病学会＝監修

気分障害の治療ガイドライン作成委員会＝編

本体 4,000 円＋税／B5 判・160 頁／医学書院／2017

『大うつ病性障害・双極性障害治療ガイドライン』の「うつ病」部分の改訂版。DSM-5 診断基準に準拠するとともに、新たに「児童思春期のうつ病」と「うつ病患者の睡眠障害とその対応」の章が加わった。各章末尾に書籍版オリジナルの「補記」があり、ガイドラインに基づいた診療を行ううえで知っておくべき実践的な知識がまとめられている。精神科医だけでなく、うつ病診療に携わる一般内科医やコメディカルにもお勧めの 1 冊。

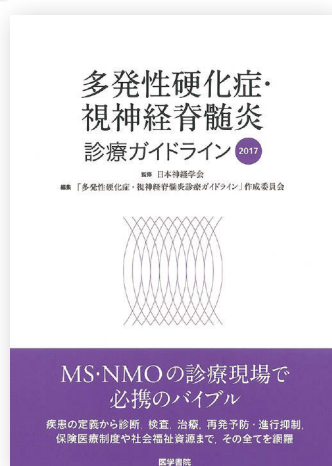


統合失調症薬物治療ガイドライン

日本神経精神薬理学会＝編

本体 3,600 円＋税／B5 判・176 頁／医学書院／2016

統合失調症患者に対する薬物治療について、薬剤の選択や用量、投与期間などの基準をまとめた学会編集のガイドライン。初発時、再発・再燃時、維持期、治療抵抗性など疾患の段階・状態ごとに、「継続投与か、中止か」といった臨床家が判断に迷う状況について可能なかぎりエビデンスに基づいた対応策を提示する。本文は、全編クリニカル・クエスチョン形式を採用。



多発性硬化症・視神経脊髄炎診療ガイドライン 2017

日本神経学会＝監修

「多発性硬化症・視神経脊髄炎診療ガイドライン」作成委員会＝編

本体 5,400 円＋税／B5 判・352 頁／医学書院／2017

多発性硬化症・視神経脊髄炎に代表される、中枢神経系炎症性脱髄疾患全般の診療手引き書。従来の治療に特化したガイドラインから大きく発展し、治療に加えて、疫学、病因・病態から、診断、検査、経過と予後といった診療全体をカバーした。第一線で診療に当たる医師によって編集され、これまでの研究成果や臨床経験の蓄積が反映された、診療現場に必須のガイドライン。